

# 洛友会会報

京都大学電気系専攻内  
洛友会  
〒615-8510  
京都市西京区京都大学桂  
075-383-7014  
www.rakuyukai.org

## 新年のご挨拶

洛友会会長 長尾 真 (昭34年卒)



新年明けましておめでとうございます。  
います。

今年も洛友会の皆様が健康で、  
良い一年間をお過ごしなることを  
お祈り申し上げます。

### 日本の国際的な立場

さて昨年を振り返ってみます  
と、日本という国が国際的にも国  
内的にもますます厳しい状況に置  
かれた一年であったと存じます。

国際的には、北朝鮮、中国、韓国、  
米国、さらには世界各国との関係  
から、「自立した国としての日本  
のあり方」を真剣に考えねばなら  
ないということを感じさせられた  
年でありました。経済的にはパブ  
ル崩壊の時代をようやく克服し、  
少しは明るい兆しが見えてきたと  
いう、ちょうどその時にこのよう  
な自己の存在そのものを問わねば  
ならない国際的環境になったとい  
うことは大変ですが、ある意味で  
は良かったのではないかと考えま  
す。

日本という存在を、国際社会と  
いう複雑な力学の働く場において  
どのように位置づけ運営してゆく  
かという問題に、はつきりした考

### 教育再生

国内的にも多くの問題が発生し  
ましたが、その中で、私は教育問  
題がもっとも大きく重要な課題で  
あると考えます。教育基本法改正  
案が審議されている（平成18年11  
月末時点）ほかに、教育再生会議  
が作られ、いわゆる骨太の方針が  
検討されることが期待されてお  
りましたが、いじめ問題の議論に終  
始し、しかも技術的なことに議論  
の時間をとられてしまったのは残  
念なことであります。

こういった問題は技術的なレベ  
ルで工夫しても根本的に解決す  
るものではなく、もっと教育の根  
本問題に立ち返って国民それぞれ  
が納得できる基本的、精神的なレ  
ベルのものを明示しなければなら  
ないと存じます。

### 道徳心の涵養

それは自己責任と道徳というこ  
とにあるのではないのでしょうか。  
道徳という言葉は戦前の悪いイメ  
ージを連想させるからかかもしれま  
せんが、戦後ずっと今日まで公に  
はほとんど使われず、避けてこら  
れた言葉であります。倫理である  
とか規範といった言葉が使われて  
いますが、これらは社会の多くの  
人々によく理解される言葉ではあ  
りませんし、知が先行して情・心  
の問題として把握されにくい概念  
であります。

そもそも道徳という言葉は率直  
に掲げる勇気が欠けていて、倫  
理・規範といった表現しかできな  
いところに現代日本社会の問題が  
あるのではないのでしょうか。何で  
も他人のせいにするのでなく、自  
分の判断と責任ということをよく  
自覚し、もっと単純率直になる必  
要があると思います。

ただ自己責任や道徳ということ  
を小中学校でどのように教え、実  
践につないでゆくかは非常に難し  
い課題であります。下手をすると  
子供たちを強制することになりか  
ねませんから、こういったことは  
まずは各家庭を中心に大きな愛情

## 迎春

二〇〇七年一月一日

### 本 部 役 員

名誉会長 近藤 文治  
会 長 長尾 真  
副会長 馬場 征彦  
三木 弼一  
島崎 真昭

### 支 部 長

関西 西原 達朗  
東京 松本 慎二  
中部 増田 宗敏  
中国 細田 順弘  
四国 武智 泰三  
九州 岡 範彦  
北陸 中島 恭一  
東北 伊藤 貴康  
北海道 中山 道夫

### 本 部 幹 事

木村 磐根  
神戸 俊夫  
大澤 靖治  
吉田 進  
鈴木 実

を持つて行くべきことでしよう。しかし今日の親自身で自己責任という考え方や道徳を身につけていない人もかなりいると考えられるわけですから、これは時間をかけて国民全体の運動として進めてゆくことが必要でしょう。

継続的な努力

以上のような国際的・国内的な基本的に重要な課題は、戦後60年間の歴史的産物として顕在化してきた問題ですから、これを正して健全な姿に持つてゆくためにはこれから相当の年数が必要であります。今年はそのターニングポイントになる年であるという予感がありますが、急速に変えようとすればかえって別のひずみが大きく出てきますから、しっかりと長期的方針を立て、それを揺らがせず、忍耐と寛容の精神でもつてしっかりと持続してゆくことがもつとも大切なことと存じます。

洛友会活動

洛友会の昨年の活動は、一昨年から改革委員会の皆様方の努力もあり、段々と活発になってきました。総会をはじめ各支部においても支部総会が行われ、関東・関西支部などにおいてはそのほかの

行事も行われ、会員相互の親睦が図られました。懸案でありました会費の納入状況も少しずつ改善されてきておりますが、会員の皆様とのさらなるご理解を得てよりいっそうの納入率の向上に努力したいと考えております。

教室との関係では、電気系学生諸君の入学式、卒業式の会に洛友会会長として出席し、お祝いの言葉を述べるとともに洛友会活動への理解を得る努力をしております。また秋の電気系教室懇話会を教室と共催し、会員の方々にも出席していただき、先生方や学生諸君との交流を深めました。こういったことを今後もっと強化し、少しでも我々の後輩のために役立てれば幸いと考えております。

事務局移転

洛友会活動において一番大きな変化は、事務局を桂キャンパスにある電気系教室内に移し、事務局活動がより円滑になるようにしたことであります。これは教室の先生方のご理解ご協力があつて実現したことで、深く感謝いたします。特に事務局を担当してくださっている大澤靖治教授と事務をしていただいている山田美津紀さんには

心からお礼申し上げます。また移転に関する諸々のことについて、すべてお世話くださった洛友会幹事をお引き受けいただいている名誉教授の木村警根先生にお礼申し上げます。

名簿の発行

洛友会会員名簿の発行につきましては、過去には年末までに行われ、会員の皆様が発行を出されるのに利用できるようにしていたのですが、今回につきましてはプ

ライバシー保護の観点から会員の皆様にアンケートをしたり、皆様の住所、所属、電話番号、電子メールアドレスなどについて名簿への掲載の可否をいちいちお尋ねするといったことをやめて参りました結果、編集に時間がかかり、名簿の発行は1月末か2月始めになる予定であります。会員の皆様方にご不便をおかけしますが、よろしくご理解お願いいたします。

なお、名簿の配布は会費を納入していただいている方のみにお送りすることになりますので、会費未納の方は是非とも納入をお願いいたします（お問い合わせは電話075-383-7014 洛友会事務局まで）。この名簿の発行に

ついてもほとんどすべて木村警根先生がお世話くださいました。

電気系教室の情報誌cue

洛友会が年2回発行している電気系教室の情報誌cueは、電気系教室の研究内容やその他の活動を紹介する広報誌であり、その編集はこれまで全面的に教室に依頼してきました。しかし第15号からは洛友会側からも編集に参加し、広く一般にも理解しやすい、親近感を与える誌面にする努力をしております。

cueの配布先は、希望された洛友会会員と、電気系教室の研究に関心を持つ企業などの賛助会員、他大学の電気・情報系図書室としておりましたが、これからは電気系教室の学生にも配布し、学生諸君に教室の研究内容をより良く理解してもらうようにする予定です。この情報誌の内容はインターネットでも見られますのでご覧いただき、会員の皆様のご意見をお聞かせいただければ幸いです。

大学同窓会

京都大学では、学部あるいは学科単位の同窓会は作られているのですが、大学全体としての同窓会は作られていませんでした。国立

迎春

二〇〇七年一月一日

京都大学

電気関係教室

教員一同

シャープ株式会社

松下電器産業 株式会社

GSYUASA 鉛蓄電池・その他電池 電源装置・照明機器・ろ過装置他 (株)ジーエス・ユアサ コーポレーション 代表取締役社長 依田 誠

高周波熱錬 株式会社

代表取締役社長 山下 英治

大学の法人化以来各大学で大学単位の同窓会が作られるようになり、京都大学においても種々検討された結果、昨年11月3日に全学同窓会の発会式典が行われました。会長は総長（現在は尾池和夫総長）と会則で決められております。

この全学レベルの同窓会は当面会費を徴収せず、同窓生の懇親の場ということのほか、大学の諸活動のPRの場、あるいは京都大学の活動を卒業生の皆さんに理解していただく場としての性格をも持つもので、年に一回ホームカミングデー（卒業生に大学に帰ってきていただく日）が開催されるように聞いております。こういった京都大学の活動や洛友会の活動、cueの内容などは全て京都大学のホームページからたどって見ることができまますので、ぜひご覧ください。

**会員相互の親睦のための工夫**

洛友会にとって会員の皆様方の間の親睦を図ることがもつとも大切なことですが、予算などの関係で容易ではありません。そういった中で、費用をほとんど必要とせず親睦を図れる方法として、イ

ンターネットを利用する方法があるのではないかと考えています。

最近ではWeb 2.0といった言葉が使われていますが、会員がコミュニケーションできる場を洛友会のサーバに設置することによって、会員の皆様がいろんなテーマについて自由に意見を交換したり、自主的な催しを企画し参加を呼びかけたりする広場（掲示板）とすることが考えられるでしょう。他にも良いアイデアをお持ちの方もいらっしゃるでしょうから、お教えいただきたく存じます。

今年が皆様にとってより良い年でありまますよう。

**教室だより**

**電気系教室懇話会報告**

平成18年度の電気系懇話会が11月17日（金）に吉田キャンパスにて開催されました。昨年は桂キャンパスでの開催でしたが、学部教育や情報学研究科に属する研究室

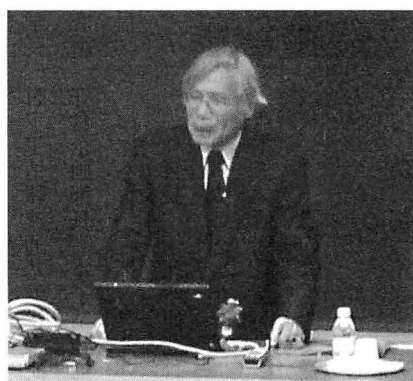
が吉田キャンパスにあり、今後は吉田キャンパスと桂キャンパスで交互に開催するという考えから、今年も吉田キャンパスでの開催と

なりました。また、昨年から洛友会との共催という形をとっていましたが、これまでのように企業単位で卒業生に連絡する縦のつながりに加えて、今年からは横のつながりとして、洛友会年度代表者にも各学年の卒業生への連絡を電子メールにてお願いすることになりました。また、今回はIEEE関西支部との共催という形での開催になりました。当日はやや冷え込み

でしたが、紅葉がさかりの中、晴天にもめぐまれ、例年より多い170名近くの卒業生・教職員・院生・学部生にご参加いただきました。第一部の講演会は電気総合館大講義室で行われ、電子工学専攻の北野正雄教授が司会を務められました。ご講演に先立って、電気電子工学科科長の佐藤亨教授からご挨拶がありました。

最初のご講演は、山田公先生（京都大学名誉教授）による「ナノテク加工技術、一クラスターイオンビーム、その後」でした。20世紀初頭にイオンビームの発生が確認されて以来、イオン注入装置、クラスターイオンビームと基礎研究が進んできたことを説明され

ました。また、クラスターイオンビームの基礎研究から生まれた超低エネルギーの表面加工技術の実用化に関連して、日本では基礎研究に関してなかなか協力が得られず、ポストンにある企業の協力ではじめて実現した等、現在ではナノテク加工技術として産官学の連携プロジェクトを推進されていますが、そこに至るまでの平坦ではない歴史について興味深いお話を紹介していただきました。小さな芽を長い期間で育てることが重要であるとおっしゃっていたことが印象的でした。



2番目のご講演は、平田康夫氏（㈱KDDI研究所 会長）による「進化を続ける情報通信」でした。最初に130年の国際通信伝送の歴史を示され、海底電信線（有線）、

財団法人  
**近畿地方発明センター**  
理事長 近藤 文治

代表取締役社長 松尾 泰

**宇宙技術開発**

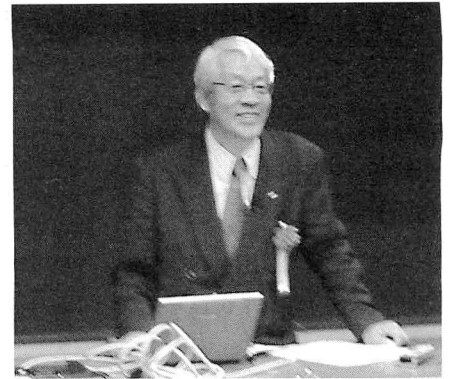
代表取締役社長 松尾 泰

**電子開発学園  
北海道情報大学**  
理事長 松尾 泰

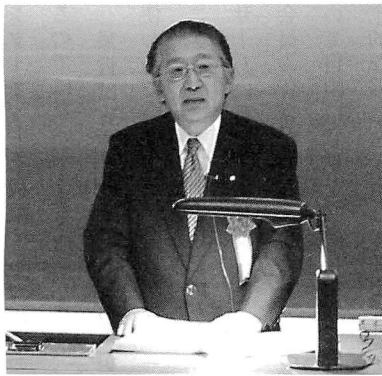
代表取締役社長 村田 泰隆

**電気評論社**

代表取締役社長 村田 泰隆



無線電信(無線)、海底同軸ケーブル(有線)、衛星通信(無線)、光海底ケーブル(有線)とこれらで有線と無線の技術が互いに競り合って進化してきた様子を紹介されました。また、このような過去の歴史を背景に実現された、現在の膨大な通信路に対して、さらに進化するケータイやインターネットの将来像について、過去から未来への流れを生き生きと語っていただきました。特に位置情報のログを残すお話や、ロングテール現象の利用などの具体例を元にした「情報通信ではまだまだいっぱいやる必要がある」という学生さんへのメッセージは、学生さんにとって大きな刺激になったようです。



は、藤洋作氏(関西電力株相談役取締役)による「最新のエネルギー事情と関西電力の取り組み」でした。人類の生存には欠かすことのできないエネルギーの問題について、環境問題と関連付け、多くのデータに基づいてわかりやすく説明していただきました。特に、「エネルギーを作ることの難しさ」を考えさせる事柄として、戦時中に松根油という松の根からつくる油で航空機の燃料を作ることが考えられた例を紹介されました。また、原子力はある意味で国産のエネルギーであるという視点や、エネルギーの将来像に関する「新・国家エネルギー戦略」のお話は、エネルギーセキュリティや環境問題を考える上で多くの示唆を与えるものであると感じました。

第二部懇親会は、午後5時30分より生協吉田食堂において開催されました。司会は電気工学専攻長の和田修己教授が務められました。懇親会の冒頭、木村磐根名誉教授から、洛友会との連携に関してのお話を頂きました。ご参加いただいた名誉教授の先生の中で西川禎一名誉教授に乾杯の音頭をとっていただき、その後は講師の先生方、名誉教授の先生方、卒業生、教職員、院生・学部生が懇親を深めました。途中、東松孝臣氏(大阪工大摂南大学総長)よりスピーチがあり、12月で800回を迎える紫翠会のお話をしていただきました。懇親会の最後は、電子工学専攻長の北野正雄教授のご挨拶で締めくくり、午後7時00分にお開きとなりました。

最後にになりましたが、ご講演を快くお引き受けいただいた講師の先生方をはじめ、遠方よりご参加いただきました卒業生の皆様、ご参加くださった教職員、院生・学部生の皆様に厚く御礼申し上げます。また、共催となりました洛友会には、卒業生への連絡等多大なサポートをいただきました。これからも卒業生、教職員、院生・学部生の交流の機会として懇話会を利用していただけたら、と思います。

久門尚史(平5年卒) 記

**森広芳照先生を偲ぶ会の開催**

左記のように「森広芳照先生を偲ぶ会」を開催いたしました。

日時 平成18年12月16日  
15:00~19:00

場所 京都国際ホテル

偲ぶ会は電気電子工学科と情報学研究科通信情報システム専攻の共催でシンポジウム、第二部を立食会とする2部構成にて実施致しました。第一部は富田情報学研究科長のからご挨拶を頂いた後に、NTT西日本 森下社長から来賓のご挨拶でスタートいたしました。続いて、偲ぶ会代表の田野が森広先生の略歴を紹介し、奈良先端科学技術大学院大学 山本副学長、NTT情報流通基盤総合研究所 守倉企画部長、電子情報通信学会 伊澤会長、(株)コミュニケーションエナジー 林会長、情報学研究科 高橋先生より故人の思い出を頂いた後に、西本工学研究科長からご挨拶、最後にご子息の森広芳文様からのお言葉で第一部を終えました。続いて、第二部は情報学研究



科 中村先生の開会の挨拶で始まり、日本電信電話株式会社 花澤第三部門長、木村磐根名誉教授から献杯の御発声、松本副学長、ドコモ関西の横島様、伝送メディア分野修士2回生、植山君からは森広先生にまつわるお話、最後にご令室の森広純枝様からの御礼のお

財団法人  
**応用科学研究所**

継  
**田中プリント**

言葉で会を閉じました。また、第一部の司会は情報学研究所の湯淺先生、第二部は電気電子工学科長の佐藤先生の予定でしたが突然のご病気で情報学研究所の高橋先生に急遽お願いしました。森広先生の人に好かれるお人柄が反映してか、皆様から頂いた森広先生のエ

ピノードは愉快で、会は楽しく盛り上がりました。但し、木村先生より「非常に特異な懇話会で」とご指摘頂き、冷や汗も出しましたが、楽しい場所が大好きだった森広先生に恐らく許して頂けると信じております。

田野 哲(推薦) 記

### 退職記念行事のご案内

深尾昌一郎教授、島崎眞昭教授、吉川潔教授、中村行宏教授におかれましては、来る平成19年3月31日付で定年をむかえらるることになりました。左記の通り、各先生の最終講義ならびに記念行事を開催することになりましたので、ご案内申し上げます。

### 深尾昌一郎教授 最終講義のご案内

日時 平成19年3月1日(木) 午後4時より  
場所 吉田キャンパス 電気総合館大講義室  
題目 「君よ、天使のこだまを聞いたか?」  
連絡先 京都大学生存圏研究所  
橋口浩之 TEL 0774-381-3819  
電子メール hasiguti@rsh.kyoto-u.ac.jp

### 深尾昌一郎教授 定年記念講演会・パーティのご案内

深尾昌一郎教授の定年記念講演会及びパーティは平成19年6月24日(日) ウェスティンホテル京都で開催予定です。

### 島崎 眞昭 教授 最終講義のご案内

日時 平成19年3月12日(月) 午後3時30分より午後5時  
場所 京都大学桂キャンパスBクラスター 桂ホール  
題目 「教育と研究を振り返って」  
連絡先 京都大学工学研究所電気工学専攻  
松尾哲司 TEL 075-383-2212  
電子メール tmatsuo@kuee.kyoto-u.ac.jp

### 島崎 眞昭 教授 退任記念パーティのご案内

島崎眞昭教授の退任記念パーティは平成19年6月16日(土)、京都プライオンホテルで開催予定です。

### 教員の異動

着任(平成18年10月1日付)

通信情報システム専攻

村田英一 助教授

(吉田研)

(平成18年11月1日付)

電子工学専攻 野田 啓助手

(松重研)

転出(平成18年12月1日付)

電子工学専攻 石田謙司 講師

(ベンチャー・ビジネス・ラボ

ラトリー、松重研) 神戸大学

(平成18年12月1日付)

電子工学専攻 波部 斉助手

(附属情報センター、北野研)

奈良先端科学技術大学院大学

### 吉川 潔教授 最終講義のご案内

日時 平成19年3月16日(金) 午後1時30分より  
場所 京都大学吉田キャンパス工学部電気総合館大講義室  
題目 「粒子エネルギーと直接エネルギー変換」  
連絡先 京都大学エネルギー理工学研究所  
増田 開 TEL 0774-383-3443  
電子メール masuda@iae.kyoto-u.ac.jp

### 吉川 潔教授 退任記念講演会・パーティのご案内

吉川 潔教授の退任記念講演会及びパーティは平成19年5月19日(土)、京都大学百周年時計台記念館で開催予定です。お問い合わせは、最終講義と同じ連絡先までお願いします。

### 中村行宏 教授 最終講義のご案内

日時 平成19年3月16日(金) 午後4時より午後5時30分  
場所 京都大学吉田キャンパス電気総合館大講義室  
題目 「並列処理アーキテクチャと方式設計技術」  
連絡先 京都大学情報学研究所通信情報システム専攻  
越智裕之 TEL 075-1753-4803  
電子メール ochi@kuee.kyoto-u.ac.jp

### 中村 行宏 教授 退任記念講演会・パーティのご案内

中村行宏教授の退任記念講演会及びパーティは平成19年6月9日(土)、京都市内にて開催予定です。

### 会員寄稿

#### 留学体験

岩見 紀征

(平8年卒・中国支部)

留学先の米国から帰国後、一年以上が過ぎ、今ではまるで遠い国の昔話のように感じられるようになったが、この場を借りて、その思い出を語らせていただきたい。

ふと会社が募集する数ヶ月程度の海外技術研修の案内が目にとまり応募してみた。一度海外に長期滞在してみたい(しかも会社の費用で)、というのが動機のひとつだった。そして、その選考面接で思いもかけずMBA(経営学修士)の方を打診され、理系一筋だった自分が一転して経営学というものを学ぶことになった。

最初はMBAの選考方法が良く分かっていなかったが、次第にその大変さが分かり青ざめることとなった。選抜過程で求められるTOEFL、GMATという英語のテストは、TOEFLとは比較にならない難しさを、いい点数がなかなか出せなかった。東京でのMBA合同説明会に参加した時、他



の参加者の流暢な英語に圧倒された。帰国子女や仕事での海外駐在経験者を多くいる中、どう勝負すればいいのか途方にくれた。更に、論文や面接で自分をアピールしなければならなかった。聞かれることは入社試験のようなものだったが、自分をどうアピールすればいいのか、日々仕事から帰っては夜遅くまでネタ出しに明け暮れた。結果として3連敗後の4連勝とま

うな田舎では英語が聞き取れないということが想像できないらしい。わざとゆっくり下手そうに話しかけても、構わず高速英語を浴びせてきた。アパート探し、ライフライン契約、口座開設、自動車購入といった生活セットアップに奔走したときにも、習慣の違いや米国の事務のいい加減さもあいまって苦労の連続だった。家族も含め米国の医者にも何度かお世話になったし、娘がホテルで怪我をして救急隊員のお世話になったこともあった。交通違反をした時やP

派であり、日本で思われているほど米国社会に受け入れられているわけではない。スタジアムで松井秀喜やイチローはかなり野次られていた。どの国においてもだが、結局は自国民ほどには丁重に扱ってはもらえない。表面上とのフレンドリーさと、心の奥にある根深い差別意識。よく言われる米国人の二面性も感じることはあった。大学生時代、時々弱音を漏らしていた友人の留学生のことを不意に思い出し、彼も苦労をしていたんだなと思った。

そのような時もあったが、楽しい思い出の方がはるかに多い。なにより、米国で仲良くなった各国の友人達は一生ものの宝であり、今でも電子メールで時々やり取りをしている。特にMBAの同級生は、同じ時期に、同じ場所で、同じ目標に向かって苦労した仲間であり、国という枠を超えた連帯意識がある。人種のるつぼにいと、文化の違いを受け入れられるようになる。ちなみに、お隣韓国は日本では近くて遠い国と言われるが、考え方などに共通点が多く驚いた。欧米人との差に比べると韓国との差など誤差みたいなものだった。何故これほどまで考え方が近いのに、ここまでいがみ合ってしまうのか不思議な気もした。

MBAで財務、戦略など様々なことを学ぶと言っても、そのまま実社会で活かせるわけではない。小手先の数字いじりに走りがちなのが多い。そうした中、あえて一番得られるものを挙げるとすると、このように、プレッシャーに晒され、議論に明け暮れることで磨かれる精神的な強さではないかと思う。

現地でも英語に苦勞する毎日が続いた。から、現場の英語は日本人向けに手加減された英語とは比較にならない。野球に例えれば、TOEICは130km台のまっすぐで慣れないと速く感じる。しかし、現地では160kmのストリートが来るか思えば、見たこともない変化球

は、英語が上手、下手に関係なく、とにかく自分の思いをきちんと伝えられなければならない。言った者勝ちの国なので、言い訳をしただけで交通違反を見逃してくれたこともある。このような経験をすると、自然と英語力が向上し度胸も付いたと思う。

米国人は学校でもビジネスの場でも議論中心と聞いていたが、MBAはまさに議論の場だった。プレゼンが終わって質問時間になっても手は挙がらず、座長が桜の質問をするのが日本ではよくある風景だが、米国ではびつくりするくらい手が上がる。お互いに感情的になることなく率直に意見をぶつけ合い、そしてお互いに気付かなかったアイデアを生み出している。

今年度の秋には、研究室の後輩の沖野裕文君が留学先のスイスから土産話を持ってきてくれるはずだった。しかし帰国を1ヶ月後に控え、交通事故で帰らぬ人となってしまった。最後に会ったのは自分の帰国を祝ってくれた会であり、その時に見た彼の笑顔が目に焼きついていて。彼の帰国報告を聞いたかったと残念でならないし、自分の留学経験を語ることにためらいも感じることもある。しかし、生きている者が悲しみ続けることは彼の本望ではないはずであり、彼のためにも自分の海外経験を活かしていくよう、頑張っていくと思う。

観光地では日本人の英語が下手なのは有名だが、自分が住んだよ

る。日本の英語教育がいかに不足しているのか身を持って感じる毎日だった。

米国での自分は文字通り外国人で、観光地以外の日本人が珍しい場所ではじろじろと見られた。移民の国である米国は懐が深く、我々外国人を温かく迎えてはくれる。しかし日本人は米国では少数

文化の違いを受け入れられるようになる。ちなみに、お隣韓国は日本では近くて遠い国と言われるが、考え方などに共通点が多く驚いた。欧米人との差に比べると韓国との差など誤差みたいなものだった。何故これほどまで考え方が近いのに、ここまでいがみ合ってしまうのか不思議な気もした。

MBAで財務、戦略など様々なことを学ぶと言っても、そのまま実社会で活かせるわけではない。小手先の数字いじりに走りがちなのが多い。そうした中、あえて一番得られるものを挙げるとすると、このように、プレッシャーに晒され、議論に明け暮れることで磨かれる精神的な強さではないかと思う。

今年度の秋には、研究室の後輩の沖野裕文君が留学先のスイスから土産話を持ってきてくれるはずだった。しかし帰国を1ヶ月後に控え、交通事故で帰らぬ人となってしまった。最後に会ったのは自分の帰国を祝ってくれた会であり、その時に見た彼の笑顔が目に焼きついていて。彼の帰国報告を聞いたかったと残念でならないし、自分の留学経験を語ることにためらいも感じることもある。しかし、生きている者が悲しみ続けることは彼の本望ではないはずであり、彼のためにも自分の海外経験を活かしていくよう、頑張っていくと思う。

健康について思うこと

杉谷 達夫

(昭50年卒・中部支部)

私事で恐縮ですが、50歳も半ばになり健康と言うものが大きな関心事となりました。健康には運動が一番と、ゴルフに嵌まり込んで

毎週1〜2回ゴルフ場に通っています。妻には白い眼で見られたり、

呆れられたりしていますが、めげずに朝早く起きて頑張っています。

以前は仕事一途の生活で、身体のことを気遣う余裕もなく、腰痛のため車から降りる時など腰を

かばって両手で身体を支えて立ち上がったたりしてみつともない光景

のこともありました。今は運動後の筋肉痛で腰が痛いことはあっても普通の動きが出来ていると思

います。

先日ラグーナ蒲郡という健康増進施設に妻と一緒に行きました。

ここは海水を温めたプールで水流やジェットの中をウォーキン

グしたり、全身の力を抜いてただ浮かんでいるだけで心身にリラ

ックス出来たりします。海藻を使った全身パックや脂肪の塊・セル

ライトを除去するマッサージもあり

ります。プールでの指導員やセラピストの女性達は化粧もしていないのに、肌は艶々で健康そのものの美しさを感じられます。大変気持ちの良い一日を過ごすことが出来ますので、一度体験されてみることをお勧めいたします。

その様に、歳の割にはアクティブに活動している積もりなのですが、勤務先の健康管理部署からは

お小言をいただいております。やれウェストは85cm以下でなくては

いけないとか、体重を身長の上乗で割り算した値(BMI)が23を

超えているとかの指導を受けてしま

います。

個人の健康を気遣ってくれるのは大変有難い事とは思いますが、

その数値は日本人の平均値と聞いて

います。なぜ皆同じでなくては

いけないのでしょうか？人それぞれに特徴があっても良いのでない

でしょうか？その人が自分の生活

パターンの中で適切に活動できて快適であれば、他の人と比較することに大きな意味はないと思

ようになります。平均値でワンパターン化

して、そこからずれてしまうと、あ

たかも病人のように扱われてしま

うことが最近多いのではと感じる

のは私だけでしょうか？平均値で

ワンパターン化ということで一番

恐ろしいと思うことは、身体の健

康よりも心の健康に対してです。

私の周りの人々、仕事の関係者や

古くからの友人、知人で心の健康

を損ねているとされている人がか

なりの人数います。でもその人達

と話をしてみると、本人が自信を

なくしていることを除いて何もお

かしいことは無いように思いま

す。

やすく心の健康を害してしまつて

いるようです。

多様な人間性を認めない社会が

悪いと言ってしまうと、それまで

ですが、自分自身が多様性を認識す

るところから始めてみたいと思

います。自分の中だけで考えてい

ても世界が限られるので、本を読む

とか、多くの友と語り合うとかが

良いと思います。友と言つても幼

なじみや学校の学友、職場の仲間

や趣味の仲間などいろいろありま

すが、一番面白いのは趣味の仲間

ではないかと思つています。私の場合

ゴルフの仲間なんです。年齢も

20台から80台までと範囲がひろく、職業、生まれた地域もさまざま

ともあると教えてくれるのは、厳

しい友の言葉と同じようにも感じ

ます。

今回のテーマである、健康につ

いて思うことに戻つてみると、ゴ

ルフは身体も心も健康になる良い

方法ではないかということですが、

心身共に健康のためにはとか偉そ

うな事を書いてきましたが、要は

ゴルフは楽しい、ゴルフに行きた

いというだけのことかもしれませ

ん。「心の健康で大切な友」の中

でも最も大切な家族(妻)のご機

嫌をとりながら、さあ明日もゴ

ルフに行きましょう。

同窓会だより

金沢での洛友41年会

2006年9月9日、10日の2日にわたって昭和41年卒の会を金沢で行った。2001年秋は吉田キャンパス、2004年秋は桂新キャンパスの見学を兼ねて京都で集まったので、今回は京都と東京の真ん中でやろうということになり金沢が選ばれ、総勢32名が参加した。第一日は電気卒の青木克比呂



さんが金沢工業大学におられることから、見学を設定していただいた。午後1…30ごろ、金沢工大に到着、先ず図書館を見学させていただいた。「工学の曙」文庫と名付けられたコレクションは科学技術上の歴史的な業績の初版本を集めたもので、現図書館長の笹教授の収集・構成になるものだそうです。この日は特別に直接笹教授に案内していただいて書庫に入らせていただいた。アルキメデス・ホイヘンス・ライプニッツ・ニュートン・フランクリン・ラブラ

ス・ヴォルタ・ガウス・マクスウェル・エディソンなどなど、懐かしいような恐れ多いような人々の初版本がずらりと並んでいた。大変な文化的資料で、1週間ほどあつとに「電気の精」とその功績と題した展示を行うべく準備中とのことであつた。金沢工大はポピュラーミュージックのLPレコード（多くは全国のポピュラーミュージック・ファンからの寄贈）を中心に大量のメディアを保有している（PMC・ポピュラーミュージックコレクション）。青木さんのお世話で、歌謡曲からジャズまで広いジャンルの中から、我々のために学生達が選んでおいてくれたLPレコードを試聴できるようになつていた。短時間ではあつたが、特製のオーディオ・チェアで楽しませていただいた。最後に夢考房を見学させていただいた。ここは学生の実験工房で、学生が自分で考えてもの作りをする場所・道具・部品を提供している。大学に計画を出して審査を受けて予算がつくこともある一方、なんの届けもせず自由に使用することもできる、という思い切ったやり方である。直接的には数名の技術職員に

よつて運営されているそうで、学生には単位はつかないシステムとのことであつた。金沢工業大学の特色のある活動をゆつくり見学させていただき、皆から感心の声があがつていた。

懇親会は山代温泉山下家で行つた。全員写真のあとと青木さんから地元金沢としての歓迎の辞、島崎眞昭さんから大学の近況と洛友会改革について説明があつたあと、京大副学長から松江高専校長に華麗な変身を遂げた荒木光彦さんの音頭で乾杯をして懇親に入つた。60を少し越えたといつても皆元氣そのもので差し入れの地酒もすぐ空いてしまう状況で、あとは座が入り乱れて久しぶりの再会に盛り上がった。恒例により最後は「琵琶湖周遊の歌」と「逍遙の歌」を全員肩を組んで合唱して3年後の再開を誓ひあつた。

翌日は観光とゴルフ組みに分かれて金沢の一日を楽しんだ。観光組は朝から小雨模様の中、9時ごろにホテルを出発した。那谷寺は起伏のある広い境内にお堂や塔が散在する、77年開山という由緒あるお寺であつた。それぞれのベースで縦に長くなりながら一巡り

した。次に訪れた「妙立寺」では、観光客を班分けして手際よく案内してくれた。見事なくらい観せんなかの姿勢であつた。いろんなからくりを仕掛けたまことに妙な寺で、忍者寺とも呼ばれている。うであるが、加賀百万石の前田家が、徳川幕府に対する万一のときの出城のつもりで建立したものだそうである。「攻められたときにこんなからくりが本場に役に立つのかね、さあどうやろうねえ、わからんねえ、実際には一度も使われなかつたんやし」といふにぎやかな声を残して、洛友41年会すずめどもは寺をあとした。日本3代名園の一つの「兼六園」は、さすがに手入れが行き届いて見事に率いられて、小雨の中それぞれ写真を撮りつつ楽しませてもらった。このあと、東茶屋町の「懷華楼」に案内してもらい、美人女将の説明で朱や群青の座敷、金箔織りの茶室などを巡つて小休憩し、金沢駅に向かった。

一方ゴルフ組み12名はツインフィールドゴルフクラブに向かった。心配していたお天気は、やはり朝から暗雲がたちこめ、旅館か

ら見る空も、日本海沿いの気候にふさわしく、雨を予感させた。それでもスタート時点では、雲が切れて期待を持たせていたが、6ホールぐらいで豪雨に変わった。ともかくパーオンしたボールを期待をこめてパットしたら、水煙を上げて止まってしまう。ついにパーティのメンバーから、前半で中止したいという声も出始めた。昼休みに、1組目にお伺いをたてると、返ってきた答えは「こんな雨でやめられるか、どうやら、一番スコアのいい方に聞いたのがまずかつたか。昼食後も張り切つて出かけた第1組の後を追う展開になつた。最後まで、雨の中のプレーを全員で楽しんだ結果、意外にスコアの好いのおどろかされた。ダブルペリアの結果は、モバイLB期待の星、千本倅生さんがベスグロも獲得し、グロス89、ネット73.4で優勝され、参加者の平均101という好成績に終わった。さすが、今から携帯電話会社を立ち上げるファイトがあるのを、再認識できたと事業の成功を皆で確信した一日であつた。

今回の洛友41年会は天候に必ずしも恵まれなかったが、終わって



支部だより

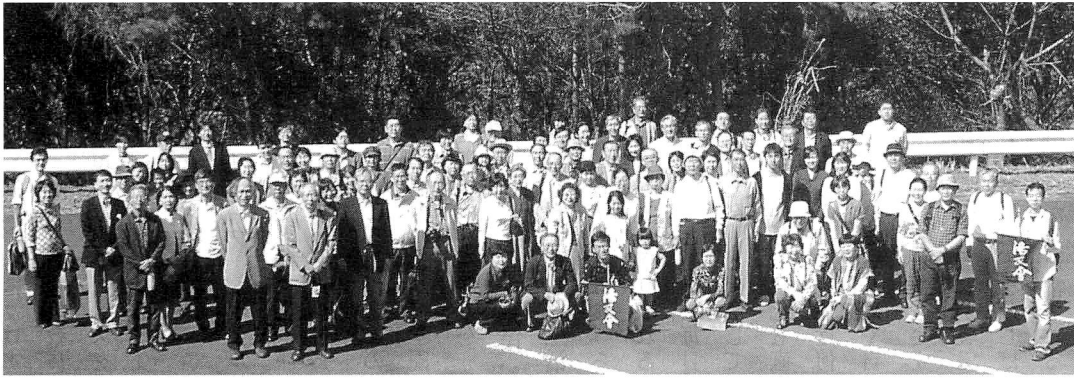
関西支部家族見学会報告

みると雨もまた印象深く、充実した二日間であった。

更家淳司(電気)  
竹原壽良(電子)  
今中良一(電Ⅱ)

関西支部では恒例の家族見学会を10月15日(日)に開催しました。本年は、京大生存圏研究所MURレーダーと信楽焼窯元、そしてサントリー山崎蒸溜所を訪れる「科学と芸術・美酒を楽しむ」企画でした。澄みわたる青空のもと、市原支部長を始め総勢88名が大型バス2台を連ねる見学会となりました。

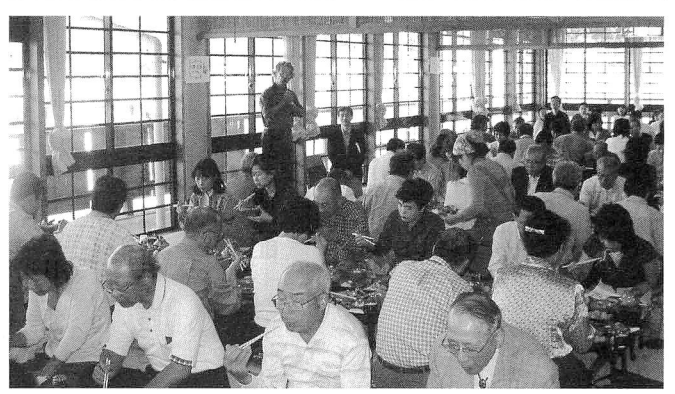
京都駅を出発、名神を東進し滋賀県信楽に到着した一行は、大型バスを降り、1キロあまりの林道を徒歩と小型バスのグループに分かれて、最初の目的地のMURレーダー観測所に向かいました。徒歩のグループは信楽の里山で爽快なハイキング気分を味わいました。MURレーダーは世界最高性能、アジア域最大の京大生存圏研究所大



気観測レーダーで、気象から超高層にいたる地球大気変動の解明に貢献しています。直径103mのレーダー面の円内には約500本のVHF帯直交八木アンテナが並べられ、超多チャンネルデジタル受信機に

よる大気微細構造の観測が可能となつていきます。研究員の方々から観測施設の説明を受け、深尾昌一郎先生からは、MURレーダーの様々な観測成果と今後の可能性について興味深い講義がありました。参加者とは、地球環境問題など、熱心な質疑応答が交わされました。 壮大な観測施設の見学と林道の往復でお腹をすかせた後は、信楽焼窯元「澤善」で昼食です。参加者全員が一堂に会し、市原支部長と代表幹事の木村先生の挨拶のほか、秋の味覚に舌鼓を打ちながら相互の親睦を図りました。また、食後は思い思いに信楽焼の鑑賞とショッピングの一時を楽しみました。 信楽の里を後にした一行は、一路、京都府大山崎に向かいました。大山崎は、平野と盆地に挟まれた独特の地形が名水と湿潤な気候を生み、「ウイスキーづくりの理想郷」と呼ばれる地です。そこにサントリー山崎蒸溜所は位置し、わが国初のウイスキーを生み出しました。われわれはグループに分かれ、蒸溜所内の設備とモルトウイスキーができるまでの工程をガイ

ドの案内で見学しました。独特の香りが立ち込める蒸溜工程では、巨大な蒸溜釜が並ぶ光景が圧巻。また、自然の気候のままに置かれた原酒樽の貯蔵庫では、山崎の地が名酒を育む姿を感じるとることが出来ます。見学ツアーの後は、お楽しみを試飲です。今回は特別の取り計らいで、シングルモルトウイスキー「山崎」18年ものを味わうことができました。しかも、数々のコンテストで優勝し、のちにNHKの番組に出演されたチーフブレNDER興水精一氏の貴重なお話も伺うことができました。数



百種の原酒から極上の一品をつくりあげるこだわり、一同感服するばかりでした。 何よりの好天に恵まれた秋の一日、二人の「プロフェッショナル」との出会いを思い出に、心地よい酔いを感じながら、帰途につきました。 最後に、見学の受入れとご丁寧な説明をいただきました、深尾先生を始めとするMURレーダー観測所の方々に、心より御礼申し上げます。 吉川典雄(昭和57年卒) 記 中部支部 「秋の例会」報告 中部支部恒例の家族同伴での秋の例会が、11月12日(日)に実施された。今回は、トヨタ・JR東海・中部電力が発起人となつて今年4月に設立開校した学校法人海陽学園訪問をメインとして計画したところ、10組の夫婦+1名の計21名の参加となった。 海陽学園は、全寮制・中高一貫の男子校で、愛知県蒲郡市の三河湾に面した風光明媚な場所に位置している。1学年120名で、6学年



720名の生徒が学ぶこととなるが、今年が開校1年目で第1学年のみであり、全学年が揃うのは5年後となる。英国のイートン校をモデルとし、同校から講師も派遣されており、今後の日本のリーダー育成を理念としている。

訪問日は日曜で、生徒たちは全員で外出中であったが、京大OBで三菱東京UFJ銀行より派遣され、生徒の指導に当たっている西村英明氏に、施設全体の案内をしていただいた。寮では、賛同する企業から派遣されたフロアマスターが生徒たちと寝食を共にして、社会人の先輩として指導を行って

いる。西村氏も派遣当初はフロアマスターであったが、その後教員資格を取り、現在はハウスマスターとして勉強・生活全ての面での相談・指導に当たっておられる。大学ではアメリカカンファットボール部に所属されていたとのこと。生徒たちと真剣に向き合おうという意欲が感じられ、こうした方々の昼夜を問わない協力によって学園が成り立っているのだと感じた。

生徒たちは、毎日6時半起床、10時半就寝という規則正しい生活を送ることで、入学当初は食べられなかった朝食もしっかり取れるようになったとのこと。また毎日日誌でフロアマスターと交信しており、体調や精神面での変化も直ぐに察知できるとのこと。最近何かと話題になっているいじめや自殺の問題も、ここでは心配なさそうである。学園理念が目に見える形となって表れるには、まだしばらく時間が掛かるが、運営される方々およびそれを支える方々の努力が一刻も早く実を結び、生徒たちが立派なリーダーとなって日本を引っ張って行ってくれることが期待される。

自分の子供も適齢期であれば、

こんな環境で学ばせたかったなと思いつながら学園を後にし、車で5分程の近さにある複合商業施設「ラグーナ蒲郡」で昼食懇親会を行い、現地解散で例会終了とした。

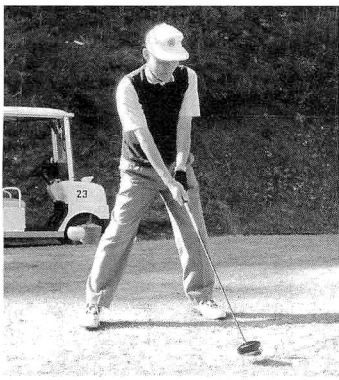
松浦 昌則(昭53年卒) 記

### 第86回関西支部 ゴルフ競技会報告

第86回関西支部ゴルフ競技会が平成18年10月21日(土) 武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。

当日は天候に恵まれ、アウトは松田氏(昭和38年卒)、インは森田氏(昭和34年卒)の始球式でプレイを開始し、合計14名(内、シニア5名)が競技に汗を流されました。

結果は次の通りです。



(シニアの部)

- 優勝 松尾 茂 (S38年卒)
- 2位 西村登努志 (S38年卒)
- 3位 細田純一郎 (S36年卒)
- (一般の部)

- 優勝 大田 龍夫 (S53年卒)
- 2位 佐伯 昭 (S56年卒)
- 3位 宮原 武壽 (S42年卒)

△第86回競技会のご案内▽

平成19年5月19日(土)

於 武庫ノ台ゴルフコース  
多数のご参加をお待ちしております。

△連絡先▽

- 関西電力 大田 龍夫 (S53年卒)
- 岡崎 俊範 (H12年卒)

050-717104-10925

okazaki.toshinori@ekrepc.co.jp

### 編集後記

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は秋から冬にかけて、地球温暖化の影響かあるいはエルニーニョ現象のためか、比較的暖かい日が続き、紅葉も例年よりかなり

遅かったようです。さて、どのような正月になっていることでしょうか。

教室だよりに報告がありますように、洛友会が共催となって2年目の懇話会でしたが、多数ご参加いただきまして厚く御礼申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

教室内の新事務局での会報発行も今号で3号目となります。教室関係のニュースや行事などをタイピングよくお知らせできるようになったのではないかと考えていますが、いかがでしょうか。相変わらずませぬご協力をよろしくお願ひ申し上げます。事務局 記

### 訃報

大14	山上 孝	7・6・18
昭5	中谷 哲夫	10
昭14	山本 清	
昭18	楠本陽一郎	18・9・26
昭23	香川 正明	17・9・14
昭31	谷村 實	18・11・8
昭36	竹歳 和久	
昭36	山口 弘	18・8・20

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。